

(別記)

小牧市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

現在、水田は市内の耕地の約半分を占め、米は本市の中心的な作物であり、戦略作物では加工用米、飼料用米が定着しつつある。

地域振興作物では、水田を活用して、野菜、景観形成作物（れんげ、菜の花等）を中心に生産されている。

しかしながら、担い手が不足しており、耕作放棄地が点在している。

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米

「売れる米づくり」を目指すため、作付品種を「あいちのかおり」、「あさひの夢」に集約する。しかし、食生活の多様化等により今後も米の消費量低下が予想されるため、消費者ニーズに応える減農薬・減化学肥料栽培など安全安心なお米を目指すとともに魅力的な米の生産をするため農業者、農業者団体・小牧市と共に考え、

- ① 受託水田の集約化
- ② 乾田直播による繁忙期の分散化
- ③ 低コスト技術の推進
- ④ 種子更新の推進
- ⑤ 品種適正配分

により地域稲作の効率的な運営を進める。

(2) 非主食用米

すでに出荷実績のある加工用米を引き続き振興しながら、世界的な穀物価格と原油の価格の不安定さから、国内産の新規需要米が今後期待されているうへ、主食用米の作付けを抑制し、米の生産調整の推進に資するため、新規需要米である飼料用米を振興していく。平成30年度には加工用米は18haの生産を、備蓄米は10haの生産を目指す。

(3) 高収益作物（野菜）

野菜について地域振興作物とし、重点品目について産地交付金の産地戦略枠を活用し、引き続き振興していく。

(4) 地域振興作物一覧（非食用）

景観形成作物（菜の花、コスモス、れんげ等）と加工用青刈り稲を振興作物とし、引き続き振興していく。

(5) 不作付地の解消

不作付水田に景観形成作物等の作付を推進する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 28 年度の作付面積 (ha)	平成 29 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	4 2 7	4 3 3	4 3 2
飼料用米	1	3	3
米粉用米		0	0
WCS 用稲		0	0
加工用米	1 6	1 8	1 8
備蓄米	1 3	1 0	1 0
麦		0	0
大豆		0	0
飼料作物		0	0
そば		0	0
なたね		0	0
その他地域振興作物	9	9	9
野菜	8	8	8
景観形成	1	1	1
.			
.			

4 平成 29 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 28 年度 (現状値)	平成 29 年度 (目標値)	平成 30 年度 (目標値)
1	野菜	高収益作物（所得 増加）の取組	ア	実施面積	8	8	8
2	加工用米	生産性向上の取組	ア	実施面積	1 6	1 8	1 8
3	飼料用米	生産性向上の取組	ア	実施面積	1	3	3

※「分類」欄については、実施要綱別紙 16 の 2（6）の ア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。）

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※平成 30 年度以降の目標値を設定している場合は、「平成 29 年度（目標値）」欄の右に欄を設け、目標年度及び目標値を記載してください。

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、（ ）内に数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり